

## 京浜急行電鉄

空港線[京急蒲田～羽田空港]  
大師線[京急川崎～小島新田]

京浜急行のルーツである大師線、空港アクセスの便利さで人気の空港線。  
大師線は4.5km、空港線も6.5kmの短い路線だが、  
「駅」からはじまるそれぞれの町には、楽しさと親しみが見つけない。

旅で大切なのは、わくわく感だ。  
毎日のたいくつな暮らしから少しだけ抜け出して、非日常のときめきを味わいたい。

そんな願いをかなえてくれるのが、京急の空港線と大師線である。

京急は現在、東京都心から三浦半島にいたる本線と、空港線、大師線、逗子線、久里浜線の5路線を走らせている。

空港線は「京急蒲田」から「羽田空港」までを結び、「品川」から快特を使うと羽田空港まで最速14分で行ける便利さが評判をよんでいる。

## 赤い鳥居がシンボルの稲荷の町

京急蒲田から空港線に乗り、最初に降りたのは「六守稲荷」駅だ。

駅前で迎えてくれたのは、赤い鳥居と町のマスコットのキツネ像「コンちゃん」。

そう、ここは「稲荷の町」なので、赤い鳥居とキツネがシンボルになっている。ありきたりの駅前とはちがう、ちょっと変わった風景がおもしろい。

駅から3分ほど歩き「六守稲荷神社」に着く。江戸時代、海に近い羽田一帯は、激しい波風により堤防が壊れる被害が大きく、海上の波浪を鎮めるために稲荷大神を祀ったのが始まりである。

本殿前のキツネ像は、駅前のかわいいコンちゃんとはちがって目つきが鋭い。堂々とした風格で「お稲荷さまの使い」として神社をまもっている。

## 空港線の各駅停車で楽しむ羽田散策。

「家内安全」「交通安全」「心願成就」「商売繁盛」のご利益があり、地元の人だけではなく空の旅をする人たちの信仰を集める。

六守周辺の7つの神社は「羽田七福いなり」とよばれ、さまざまご利益がある神社を「いなりめぐり」でまわるのも楽しそうだ。

近くの「白魚稲荷神社」は無病息災のご利益がある。お参りして橋をわたると、多摩川と空港を背に赤が映える**大鳥居**が見える。シュールで神々しい光景だが、これは羽田空港の拡張により99年からこの地に移された、元の六守稲荷の大鳥居である。

## 観光スポットとしても人気の羽田空港

「天空橋」駅から京急に乗ると、隣が「羽田空港」駅で、駅のホームは空港ターミナルビルの地下へ直接つながっている。

最近の**羽田空港**は、飛行機を利用する人だけではなく、多くの人を惹きつける観光スポットになっている。

空港ビルには流行のショップやレストランがたくさん入っており、買い物やグルメが楽しめる。アート作品も飾られていてギャラリーの雰囲気も味わえる。

しかし空港内で一番人気がある場所といえば、やはり滑走路を眺められる展望デッキであろう。

次々と目の前で大空へ飛び立つ飛行機には、子どもだけではなく大人も夢中になってしま



飛行機を眺めているだけで楽しい。  
羽田空港の展望デッキ。



多摩川を背にすくっと立つ大鳥居。  
圧倒的な存在感だ。



文・写真 田中ひろみ (脚本家)

text and photographs by Hiromi TANAKA

1959年東京都生まれ。早稲田大学教育学部卒業後、カネボウ宣伝部を経て、脚本家デビュー。土曜ワイド劇場「法医歯科学の女」など多数。

# 民鉄

う。ずっと見ている見飽きず、時間がたつのを忘れてしまうほどだ。

デッキは夜10時まで開いているのでロマンチックなエアポートの夜景や星空への夜間飛行を見ることが出来る。

## 厄除けといえば川崎大師

京急本線に戻り、「京急川崎」駅へ向かった。

「京急川崎」駅から「小島新田」駅を結ぶ大師線の歴史はふるく、明治32年、関東では最も古い鉄道の「大師電気鉄道」が六郷橋から川崎大師の間を結んだ。京急はそれを前身に発展したので大師線はいわば京急のルーツだ。

大師線に乗り、「川崎大師」駅で降りた。

厄除けで有名な**川崎大師**。

お正月の初詣客の多さは全国でも有数である。

赤いダルマ、お餅、アメなどを売る店が並ぶ表参道、仲見世通りをすすむだけで晴れやかな、ごやかな雰囲気につつまれる。

立派な大山門をくぐると、護摩が焚かれる煙の向こうに大本堂の姿がそびえ立つ。荘厳であるが、境内全体の空気は穏やかだ。

平安時代にこの川崎の地で無実の罪のために不遇に暮らしていた武士が、夢枕に立った高僧のお告げに従い、海中で拾った弘法大師像の供養をしたのが寺の縁起とされている。その武士がちょうど42歳の厄年であったため、今でも川崎大師は「男42歳の厄除け」に特にご利益があるといわれている。

## 川崎大師を参拝し周辺をめぐる。

### めずらしい中国式庭園を堪能

続いて向かったのは寺の南側にある大師公園内の中国式庭園「**瀋秀園**」だ。

川崎の友好都市・中国の瀋陽の協力によって作られた日本で最大クラスの中国式庭園である。

「瀋秀園」の「瀋」は瀋陽の瀋、「秀」は「美しい」の意味で、色あざやかな庭だ。

牡丹やつつじの赤むらさきの花が咲き、中央の池をかこむように黄色の瑠璃瓦の屋根と白い壁の回廊がある。朱塗りの柱、池に流れ込む滝4つの楼閣、大きな太湖石など。

日本にいながらにして、明や清時代の庭園の世界へ誘ってくれるめずらしい空間だ。

そして旅のしめに訪れたのは藤崎小学校。

校庭に「太陽の塔」で知られる岡本太郎さんのブロンズ像があり、職員室に声をかければ一般の人でも見ることが出来る。

題名は「喜び」。丸い地球に乗った子どもが嬉しそうに天にむけて両手でリボンをかかげる姿。学校の方は「この子は『喜び』の『喜』の漢字のカタチをしているんです」と教えてくれた。なるほど、おもしろい。

元気にあふれた子ども姿からは、作者自身の純粋な気持ちと喜びの力がわきでている。

人は誰でも夢中になったり、わくわくする時には、純粋な心になる。京急の空港線と大師線に乗る小さな旅は、非日常の楽しさにあちこちで出会う喜びに満ちた旅であった。



あざやかな色彩がいかにもな**瀋秀園**。



関東三本山のひとつ、**川崎大師**。本尊厄除弘法大師を祀る。